

2014年度総会議案	
議案 1	2013年度全国壮年会連合活動報告の件
議案 2	2013年度全国壮年会連合奨学金委員会活動報告の件
議案 3	2013年度全国壮年会連合会計(一般会計、奨学金会計)決算報告、監査報告の件
議案 4	2015年度神学校献金(神学生奨学金献金)目標額の件
議案 5	2014-2015年度全国壮年会連合活動計画案の件
議案 6	2014-2015年度全国壮年会連合奨学金委員会活動計画案の件
議案 7	2014年度全国壮年会連合一般会計修正予算案 及び2015年度全国壮年会連合一般会計予算案の件
議案 8	2014年度全国壮年会連合奨学金会計修正予算案 及び2015年度全国壮年会連合奨学金会計予算案の件
議案 9	2015-2016年度全国壮年会連合奨学金委員長選挙に関する件
議案10	規則改定委員の件
議案11	2015年度総会議長の件
議案12	2016年度全国壮年会連合開催担当地方連合の件

公 示	
2014年度総会において以下の通り選挙を行います。	
<立候補対象>	
2015・16年度 奨学金委員長 1名	
「全国壮年会奨学金規程」第5条2項による。	
立候補者は当選後、総会にて4名の奨学金委員を指名し承認を得ることとなりますので事前に選考願います。	
立候補締切り:2014年7月31日	
全国壮年会連合規約細則第23条により選挙管理委員会が設置されましたので、選挙管理委員長宛に、書面で届出をしてください。届出の内容は、「立候補する職務名(今回の場合は奨学金委員長)、氏名、所属教会、生年月日、受漫年月日」を記載してください。様式は自由です。	
<届出先>	
選挙管理委員長:石井 努 (北関東地方連合壮年会長)	
(〒379-0852 群馬県太田市藪塚町1122-1 日本バプテスト太田キリスト教会気付)	
選挙管理委員:渡邊 敦(東北地方連合壮年会長)、北村慎二(関西地方連合壮年会長)、三室日朗(福岡地方連合壮年会長)	
注)選挙管理委員会は、総会当日まで立候補者名は公表しません。ただし立候補者ご自身のご判断で公表されることは自由といたします。	

会議報告(開催日時順)	
神学校献金推進委員会議	
開催日:5月16日(金)(於連盟会議室) 出席:地方連合神学校献金推進委員、壮年会連合役員、事務局員、他	
<会議内容概略>	
各連合内での活動報告および事前アンケート結果を踏まえ、神学校週間の取組み、推進委員としてのアピールの実態や留意点、神学校献金の連合や各教会壮年会としての目標などの情報を共有した。	
今年の神学校週間のチラシは大幅に発行部数を増やした。教会全体の業として活用することを確認した。	
2015年の本推進委員会議は全国壮年会の前日に開催することを確認した。	
地方連合壮年会等代表者会議	
開催日:5月17日(土)(於連盟会議室)	
出席:地方連合壮年会長、神学校献金推進委員、壮年会連合役員、奨学金委員、他	
<審議事項概略>	
本年度総会議案に対する意見交換と内容確認をした。	
また第49回(担当:中国・四国)と第50回(担当:東京)の全国壮年会の内容や準備状況について確認した。	
壮年会連合規約細則に則り、選挙管理委員会を設置した。(詳細は選挙公示欄を参照)	

日本バプテスト連盟全国壮年会連合
〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4
事務局執務時間:月、水、金 10:00 ~ 16:00
・fax:048-886-7533 http://www.sonen.net sonen@bapren.jp
郵便振替 00150-7-669605「日本バプテスト連盟 全国壮年会連合事務局」

全国壮年会連合 ニュース 	2014年6月27日
	No. 82
日本バプテスト連盟全国壮年会連合 発行人 大城戸一彦 編集人 井伊 肇 Topics password sorengo	

~キリストにある愛と平和をめざして~

第49回全国壮年大会in広島へのご案内

第49回全国壮年大会実行委員会
実行委員長 石倉 央(広島教会)



講師のスティープン・リーバー先生

主の御名を賛美いたします。

今年の全国壮年大会は8月22日(金)~8月23日(土)、広島平和記念公園に近い、広島市文化交流会館と日本バプテスト広島キリスト教会を会場にして開催いたします。全国皆様のご参加を心からお待ちしております。

32年ぶりの広島での開催は、主イエスが「幸い」とされた「平和」について、考え、祈りを合わせる大切な機会であり、大会主題は「キリストにある愛と平和をめざして」を掲げました。被爆から70年となる節目を来年に控え、被爆された方と共に広島からの平和と祈りへの思いを込め、全国壮年会連合が掲げる「教会形成を担う」「伝道者養成の業に参与する」を「平和」と「和解」の視点から考える場にしたいと願っています。

主題講演は前広島平和文化センター理事長であり、広島女学院大学客員教授のスティープン・リーバー先生にお願いしています。お父様のディーン・リーバー宣教師は、三浦綾子さんの小説「氷点」にも書かれておりますが、1954年の青函連絡船「洞爺

丸」沈没事故でご自身の救命胴衣を他の乗船客に譲って亡くなったことで知られています。4年前の8月9日には長崎バプテスト教会を会場に長崎キリスト協議会主催の原爆記念日礼拝で「なぜ『キリスト』が平和への希望なのか?」と題して説教をされました。「戦争文化ではなく平和文化」「力の文明ではなく愛の文明」を大切にされ、核兵器や地球環境から日常の教会生活まで、様々な場面での対立や意見の違いについて、キリストに立ち返った「対話と和解」を土台に、流暢な日本語で時にはユーモアも交え、心に響くメッセージを語ってくださいます。

できるだけ堅苦しくなく、ひとつひとつの出会いを大切にしたい、ひとりでも多くの方と分かち合いと交わりを持っていただける機会にしたいと考えています。

壮年の皆様はもちろん、女性、青年、少年少女の皆様にも、きっと何かを感じ受け止めていただけるよう準備を進めていますので、この夏はぜひ広島にいらしてください。 在 主



2日目会場の広島バプテスト教会

広島原爆ドーム



実行委員長 石倉 央兄



主の御名を賛美いたします。
2009年～2012年に東北連合の壮年委員をさせていただいた時、全国壮年会連合の代表者会議において各地方連合の「神学校献金推進委員」の方々との交わりの時が与えられ、全国壮年会連合の「神学生の学びを支える」働きについて学ばさせていただきました。
私自身の中では、全国壮年会連合は「牧会者を育てる働き」、全国女性連合は「牧会者の働きを支える働き」という位置付けをしています。

今までは、西南学院大学で学ぶ神学生だけが対象だった「奨学金制度」が東京バプテスト神学校と九州バプテスト神学校で学ぶ方々にも適用されるということになり、喜んでいたところでした。現在の東北地方連合の教会・伝道所には西南学院大学、東京バプテスト神学校等で学びをされてこられた牧会者が奉仕をされています。東北地方連合の壮年会は、神学生の学びの支援のために東北地方連合から献身された神学生に対して壮年会として毎年図書費を補助してまいりました。これからもその働きを続けてゆきたいと思います。

一方、神学校献金については、全国壮年会連合の神学校献金の目標額は3,000万円が掲げられています。現在、東北地方連合からは3名の献身者が学んでいます。目標達成のためにも東北地方連合も今年度こそは100万円の目標額が満たされるよう、献身者の学びが支えられるよう、祈りつつ東北地方連合内の諸教会・伝道所にアピールしてゆきます。

ちなみに、山形キリスト教会の壮年会の「神学校献金」への対応は、壮年会費の積立(1,000円/月)月1回行われる壮年家庭集会の席上献金 今年初めて、山が好きな牧師と壮年によるミニバザー的な「山菜販売」等により、年間を通して捧げられています。「神学校週間」という期間限定の献金と働きだけでなく、1年の「時」を大切に用いています。また、教会としての総体的な働きは「神学校週間」の主日礼拝の席上献金と所定の封筒による教会員の自由献金です。

献身者お一人お一人の健康と生活が守られますようお祈りいたします。アーメン。



主の御名を、心から讃美いたします。
主の恵みと憐れみによって、これまでの歩みが守り導かれましたこと、主に心から感謝いたします。そして全国諸教会・伝道所のみなさまから、日ごろ篤いお祈りと心からのお支えによって、私たち献身者の歩みがゆるされていますことも、この場を借りまして心から御礼申し上げます。

私は東北宮城県仙台市の出身で、今年で51歳となります。主なる神から献身の召命をいただき、23年間勤めた会社を退職し、日本バプテスト仙台基督教会からの教会推薦をいただき、2010年に西南学院大学神学部を受験しましたが準備不足で不合格になりました。

2011年3月11日に、再び神学部受験をめざし、日本バプテスト連盟で行われていた献身者研修会に参加中に、東日本大震災を経験しました。2012年に無事合格し入学、被災地から立たされていく献身者として、気合い十分で勉学に取り組んだものの、諸々の衰えからかいろんなことがままならない自分と日々格闘しつつ、今年2014年3月に学部を卒業しました。昨年度は、神学部学生会長の重責を担わせていただき、福岡で開催された全国壮年大会とその準備を通して、多くの兄弟姉妹との出会いと、みなさまから確かに祈り支えられているのだという貴重な経験をさせていただきました。2014年度は神学専攻科での最終年度の学びが始まっています。

研修教会につきましては、2年間福岡ベタニヤ村教会(安藤榮二牧師 渡辺信一牧師)で学ばせていただきました。無牧師の期間を、共に歩むことが出来たことも、大切な経験と思い出となっています。今年度は、古賀バプテスト教会(金子 敬牧師)で研修させていただいております。金子 敬牧師から、牧会者としての様々な働きを、刮目して学ばせていただきたいと思います。

金丸英子教授のご指導の下で修了論文に取り組みます。バプテスト史からバプテスト教会としての教会理解を深めていくことが出来ればと願っています。

これまでの学びを通して気づかされるのは、どれだけ私が知識や経験を積んだとしても、いざ教会に牧会者として遣わされた時に、キリストにある愛を持って教会の兄弟姉妹と、たとえ苦手意識のある方に対して、向き合い接することが出来なければ、私は無に等しく何の益もないのだということです。まさにキリストに倣う者とされたい、この思いを新たにかつ強くされています。そのことを実践するために、なお研修と学びを進めていきたいと思っております。

この原稿を執筆しながら、これまでお世話になった方々のお顔が浮かんで来て、感謝の気持ちに満たされてきます。日ごと暑さが増していく頃ですから、どうかお身体ご自愛ください。またお目にかかるのを、心から楽しみにしております。ありがとうございます。

栄光在



その2「受」

日本バプテスト連盟常務理事 吉高 叶

このシリーズでは、献身を決意し神学校で学んでいこうとする者たちが、たちどころに問われていくことになる「たたずまい」のこを見つめています。私は、この献身者のたたずまいを「断」「受」「専」「委」という四つの文字で理解しているのですが、今回は、「断」(断念、断ち切る)という姿勢について考えました。今回は「受」、「学びにおける「受け」」について一緒に考えて参りましょう。

この学びはギフト

私はかねがね神学校という場所での学びは「恵みの学び」であると思っています。恵みの理解も広いですが、神学校という学びの機会(場)は、贈り物(ギフト)として受け止めるものではないかと思うのです。まさに「受」です。人が献身することも、その献身が教会の兄姉に受けとめられ祈られていくことも、そしてその人が神学校に導かれることも、すべては「受」です。身体の不自由な男が、その床の四隅を握られ、イエスのところに運ばれていったように、しかも屋根を破って降り降ろされるような冒険的な持ち運ばれ方さえしてイエスのもとに連れ行かれたように、献身者が伝道者となっていく道のりの中には、多くの人々が苦労をし汗を流して持ち運んでくれた事実が必ずあるのです。「受」です。神学校に入学することが許されたその時、献身者は何よりもまず、持ち運ばれてここに来、恵まれ、贈られて、この学びの日々を過ごすのだということを中心に刻み、恐れつつ歩みを始めるべきです。

一念発起し、自分の意志で神学校の門を叩き、誰にも世話にならず、自分の力で学びを続け、課題を満たして卒業した! 一見、自立した見事な姿のようですが、その自意識が「教会に仕える」という基本姿勢を忘れさせてしまいがちです。「神学」とは神の御言に仕える学問であり、同時に教会に仕える学問です。科学的な方法、批判的方法を取り入れて神学諸科目を学びますが、大切なことはそれらの営みが「神と教会に仕える」ということにきちんと位置づけられていることです。神学の学びはそれなりに面白いものです。教会との繋がりを忘れていても、それとして研究が続けられるほど奥も深い。もちろん、神学を楽しんで良いし、深めてもいただきたいです。ただし、その学びの場も時間も、神と人々によって自分に贈られた機会として受ける姿勢から、そして目的は「仕えること」にあるという位置づけから、決して離れてはならないのです。

奨学金を受ける

奨学金を受けて学ぶ。私たちはこの制度を大切に、この制度を用いて献身者が学んでくださること

を心から喜んでいます。奨学金制度とは、決して経済のテーマではなく、「繋がりの恵み」のテーマだと思います。奨学金は、それを献げる人々の祈りであり、その人々の献身でもあります。神学生はそれを受け取ります。人々の祈りと献身を、「教室」として、「授業」として、「学友との交わり」として、そして「寮生活」として受けているのです。

言うまでもなく、バプテスト教会は信徒の教会であり、もともとは信徒の中から牧師を立て(擁立)て行きました。立てた人々は立てられた人を支え、立てられた人は立てた人々の祈りと献身を請け負うようにして学びに専念し、牧師職を担いました。この出来事は、もちろん今も、教会現場における信徒と牧師の関係の事実です。どちらか一方の強い召命観や意気込みだけでは維持できない関係です。そして、この関係性には、当然ながら互いの緊張関係と互いへの理解や尊敬が不可欠なのです。「受けて生きる。立てられて生きる。」「人を立てる。そのために献げて生きる。」なかなか難しい(そしてきっと面倒くさい)こうした関係性を活かし用いてこそ、バプテスト教会はつくられていきます。それゆえ、バプテストの献身者だからこそ、この教会現場の関係性を「神学生時代」から身に受けていくことが大事なのだ、私は思います。

奨学金を受ける。神学生たちにとって、それはけっこうプレッシャーであるに違いありません。しかし、献身者の学びとは、仕える学びです。多くの人々の祈りと献金(献身)を受けて為される学びです。たとえ自由ではあっても、背後に繋がりも、期待も、祈りも無いような学びではなく、むしろそれらに囲まれてしまうような学びです。それこそが、プレッシャーでありながら同時に恵みなのです。「繋がりの恵み」です。ですから、是非とも奨学金を受けて、その「繋がりの恵み」を身に帯びながら神学校で学んでいただきたいのです。

そして、私たちは、自分自身の献身が神学生たちに繋がっている、そんな喜びを込めて「神学校献金」を献げていきたいと思っております。